中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

山口大学

平成21年３月

国立大学法人評価委員会

目　　次

平成20年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

国立大学法人山口大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果　・・・・　７

１　全体評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

２　項目別評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

【独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した現況分析】

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１

平成20年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について

評価の目的

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領（平成19年４月国立大学法人評価委員会決定、平成20年３月一部改正）」（以下、「実施要領」）に従い、国立大学法人法第35条により準用される独立行政法人通則法第34条に基づく「中期目標に係る業務の実績に関する評価」の基本をなすものとして、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下、「法人」という。）の平成16年度から平成19年度までの４年間の業務の実績について、国立大学法人評価委員会（委員長：野依良治　独立行政法人理化学研究所理事長）が評価を行っています。

この国立大学法人評価は、

(1)　法人の継続的な質的向上に資するとともに、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たしていくこと、

(2)　教育研究の高度化、個性豊かな大学づくり、法人運営の活性化等を目指した法人の取組を積極的に支援することにより、長期的な視点から法人の発展に資するものとなること、

(3)　評価結果を踏まえて、各法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや中期目標・中期計画の検討に資するものとなること

を目的として実施しています。

１　評価方法

国立大学法人評価は、大学等の教育研究の特性に配慮しつつ、各法人の自己点検・評価に基づき、教育研究の状況や業務運営・財務内容の状況等について、各法人毎に定められた中期目標の達成状況等の調査・分析を行い、法人の業務実績全体について総合的に評価を実施いたしました。したがって、本評価制度は、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

このうち、教育研究の状況については、専門的な観点からきめ細かく評価を行うことが必要であることに配慮し、国立大学法人法に基づき、国立大学法人評価委員会が、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）に対し評価の実施を要請し、当該評価の結果を尊重して評価を行っております。

(1) 法人における自己点検・評価

各法人は、実施要領等に従って、自己点検・評価を実施し、平成16年度から19年度までの期間の業務の実績に係る報告書を作成しました。

(2) 機構における教育研究の状況の評価

機構においては、教育研究の状況の評価として、「中期目標の達成状況の評価」及び「学部・研究科等の現況分析」を行いました。

中期目標の達成状況の評価は、「教育研究等の質の向上」の目標に係る「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「社会との連携、国際交流等に関する目標」の３項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた４項目）について、各法人から提出された達成状況報告書等を調査・分析するとともに、訪問調査を実施し、書面では確認できなかった事柄等の確認を行いながら評価を実施しました。

学部・研究科等の現況分析は、①主要な教育研究組織毎に教育研究の水準や質の向上度を明らかにすることが、中期目標の達成状況を適切に判断するために必要であるとともに、②各法人の個性を伸ばし質を高める観点から、各法人が自主的に行う組織及び業務の検討や次期中期目標・中期計画の素案に関する検討に、評価結果を反映させるためにも必要であるとの趣旨で実施しました。各学部・研究科等における教育、研究の目的に照らし、「教育の水準及び質の向上度」「研究の水準及び質の向上度」について、各法人から提出された現況調査表等を調査・分析して評価を実施しました。

(3) 国立大学法人評価委員会における評価

国立大学法人評価委員会においては、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営に関する重要事項（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の４項目について、各法人から提出された実績報告書等を調査・分析するとともに、学長・機構長等からのヒアリング、財務諸表等の分析も踏まえながら評価を実施しました。

教育研究等の状況については、機構における評価結果を基本的にそのまま受け入れつつ、国立大学法人評価委員会において附属病院及び附属学校の状況に関する評価を実施するとともに、定員超過の状況の確認を行っております。

① 全体評価

・ 中期目標期間における業務実績の全体について、各法人の特性や項目別評価の状況を踏まえつつ、記述式により総合的な評価を行っております。

② 項目別評価

・ 「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「その他の目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の７項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた８項目）については、以下の５種類により達成状況を示しております。なお、これらの水準は、各法人を通じた最小限の共通の観点を踏まえつつも、各法人の設定した中期目標に対応して示されるものであり、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

「中期目標の達成状況が非常に優れている」
「中期目標の達成状況が良好である」
「中期目標の達成状況がおおむね良好である」
「中期目標の達成状況が不十分である」
「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

２　評価体制

国立大学法人評価委員会の国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会の下に評価チームを設置して、調査・分析を行っております。評価チームとしては、国立大学法人分科会については、近隣地区の大学を担当する基本チーム及び附属病院の専門評価チームを、大学共同利用機関法人分科会については、各法人を担当するチームを設置して評価を行っております。

機構が行う教育研究の状況の評価については、機構の国立大学教育研究評価委員会の下に具体的な評価を実施するために、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行っております。達成状況判定会議は、各法人の規模・構成に応じた８つのグループを編成し、さらにグループ内に複数のチームを設置して評価を行っております。現況分析部会は、分野別の１０の学系部会を設置して評価を行っております。研究業績水準判定組織は、科学研究費補助金の分類を基とした６６の専門部会を設置して評価を行っております。

３　審議経過

【国立大学法人評価委員会における評価】

平成20年

・６月30日まで	各法人から実績報告書、財務諸表等の提出
・７月22日～８月７日	各評価チーム会議において実績報告書等の調査・分析
・７月29日～８月11日	各法人から業務の実績についてヒアリング（国立大学法人）
・９月１日	〃　（大学共同利用機関法人）
・12月８日～12月19日	各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討

平成21年

・２月23日～２月27日	各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討
・２月26日	大学共同利用機関法人分科会において評価結果（素案）の審議 （意見申立ての機会：３月６日～13日）
・３月６日	国立大学法人分科会において評価結果（素案）の審議 （意見申立ての機会：３月６日～13日）
・３月26日	国立大学法人評価委員会総会において評価結果（案）の審議・決定

【機構における教育研究の状況の評価】

平成19年

・４月　６日	国立大学法人評価委員会から教育研究の状況の評価の実施の要請

平成20年

・７月～８月	書面調査
・９月２日～９月８日	現況分析部会（第１回）において評価結果（素案）の審議
・９月11日～９月30日	達成状況判定会議（第１回）において評価結果（素案）の審議
・10月14日～11月28日	法人への訪問調査
・12月１日～12月５日	現況分析部会（第２回）において評価結果（原案）の審議
・12月15日～12月19日	達成状況判定会議（第２回）において評価結果（原案）の審議

平成21年

・１月８日	国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（原案）の審議 （意見申立ての機会：１月13日～30日）
・２月10日	意見申立審査会において意見申立の対応審議
・２月19日	国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（案）の審議・決定 機構から国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の評価結果の提出

４　国立大学法人評価委員会委員（平成 21 年３月現在）

（委員）１７名

あらかわ　まさあき 荒川　正昭	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター長、 新潟県福祉保健部・病院局参与
いいよし　あつお ○飯吉　厚夫	中部大学総長
いけはた　せつほ 池端　雪浦	前東京外国語大学長
えがみ　せつこ 江上　節子	東日本旅客鉄道株式会社顧問、 大正製薬（株）監査役
かつかた　しんいち 勝方　信一	教育ジャーナリスト
からき　さちこ 唐木　幸子	オリンパス株式会社研究開発センター研究開発本部基礎技術部長
くさま　ともこ 草間　朋子	大分県立看護科学大学長
ごとう　しょうこ 後藤　祥子	日本女子大学長・理事長
つげ　あやお 柘植　綾夫	芝浦工業大学長
てらしま　じつろう 寺島　実郎	株式会社三井物産戦略研究所所長、 財団法人日本総合研究所理事長
とりい　やすひこ 鳥居　泰彦	慶應義塾学事顧問、 日本私立学校振興・共済事業団理事長
なぐも　みつお 南雲　光男	日本サービス・流通労働組合連合顧問
のより　りょうじ ◎野依　良治	独立行政法人理化学研究所理事長
ひるた　しろう 蛭田　史郎	旭化成株式会社社長、 経団連教育問題委員会共同委員長
みやうち　しのぶ 宮内　　忍	宮内公認会計士事務所所長
みやはら　ひでお 宮原　秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長
もりわき　みちこ 森脇　道子	自由が丘産能短期大学長

（臨時委員）３名

たち　あきら 舘　　昭	桜美林大学大学院国際学研究科教授
やまもと　きよし 山本　　清	独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部長
わだ　よしひろ 和田　義博	和田義博会計事務所所長

※　◎は委員長、○は委員長代理

国立大学法人評価委員会の下に置かれる国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会及び評価チームの委員については、文部科学省のウェブサイトをご覧ください。

５　大学評価・学位授与機構　国立大学教育研究評価委員会委員（平成 21 年３月現在）

（委員）３０名

浅野　攝郎	東京大学名誉教授
飯野　正子	津田塾大学長
池田　髙良	長崎県立大学長
岡田　修 三	東京海上日動火災保険株式会社特別任命参与
金田　嘉行	ソニー株式会社社友
○北原　保雄	前日本学生支援機構理事長
木村　靖二	立正大学教授
神津　忠彦	東京女子医科大学顧問・名誉教授
河野　通方	独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部長
小林　　誠	独立行政法人日本学術振興会理事
児玉　隆夫	学校法人帝塚山学院学院長
五味　文彦	放送大学教授
齋藤　八重子	前東京都立九段高等学校長
鈴木　昭憲	東京大学名誉教授
瀬戸　純 一	駿河台大学教授
舘　　昭	桜美林大学教授
◎丹保　憲仁	北海道大学名誉教授
中川　幸也	株式会社ＩＨＩ取締役
中里　　毅	前ＮＨＫ学園理事長
中洌　正堯	兵庫教育大学名誉教授
中野　仁雄	九州大学名誉教授
橋本　貴美子	京都府立南陽高等学校長
平松　一夫	関西学院大学教授
廣部　雅昭	前静岡県立大学長
ﾊﾝｽ ﾕｰｹﾞﾝ･ﾏﾙｸｽ	学校法人南山学園理事長
前原　澄子	京都橘大学看護学部長
松岡　　博	帝塚山大学長
馬渡　尚 憲	宮城大学長
牟田　泰三	福山大学長
和田　敬四郎	放送大学石川学習センター所長

※　◎は委員長、○は副委員長

国立大学教育研究評価委員会の下に置かれる各種部会等の委員については、独立行政法人大学評価・学位授与機構のウェブサイトをご覧ください。

国立大学法人山口大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」であることを理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動と教育の実践を最大の使命に掲げ、中期目標の達成を目指している。また、平成 18 年度に制定した「山口大学憲章」に基づき、次期以降の中期目標期間を見据えた「明日の山口大学ビジョン」を策定し、大学の将来像と実現のための運営方針を示し、教職員の意識改革を高め、全学で目標の実現に向けて取り組んでいる。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、海外短期語学研修制度の導入、知的財産に係る指導的教育者の養成、教育的・専門的立場で選定した図書と学生の視点で選定した図書を効果的に購入するシステムの構築、全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会の充実、ボランティア活動の単位化、外国語の能力別クラス編成や学部・学科ごとの認定基準の制定等の取組を行っている。

研究については、環境共生学及び生命科学分野の研究組織を「スーパー研究推進体」等に選定する戦略的な研究力の推進、特許検索システム（YUPASS）の構築、学生を特許インストラクターとして育成するシステムの開発、独自の文理融合型の研究等を活かした時間学研究所の設置や「やまぐち学」の構築等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、国際協力銀行との協力協定の締結による中国内陸部の現職教員に対する人材養成、「山口国際協力の里ネットワーク推進会議」等による積極的な開発途上国等の調査・研究の推進等の取組を行っている。

業務運営については、学長のリーダーシップの下、学長裁量経費（戦略的経費）について、自己点検と次年度の見直しを行う仕組みや、プロジェクトの複数年化ができるよう資源配分の工夫改善を図っている。また、業務改善効果を上げた者等に対し、学長表彰を行うなど、業務改善への取組を推進している。

財務内容については、外部資金の受入れについて、大学独自の支援や地域活動を展開しており、産学で一体となり取り組んできた活動等が実を結び、共同研究、受託研究及び寄附金による外部資金が増加してきている。

その他業務運営については、施設実態調査情報や部局単位のエネルギー使用量等をデータベース化したマネジメントシステムを構築し、施設マネジメントに取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（17項目）のうち、３項目が「良好」、14 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「「インターナショナル・キャリア・アップ・プログラム」を実施することにより、異文化理解を促進し、豊かな国際感覚をはぐくむ」について、海外短期語学研修制度を導入し、語学習得やホームステイ、文化体験を介して異文化理解を促進させ、参加者も多いことは、優れていると判断される。

○　中期計画「各研究科において、専門的職業人育成のため、実践的な内容を考慮したカリキュラムを編成する」について、技術経営分野では、ケーススタディを取り入れた実践的教育を実施したこと、また、知的財産分野では、知的財産教材の開発等、高い水準の教育を実施した結果、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、知的財産に係る指導的教育者の養成に取り組んだことは、優れていると判断される。

○　中期計画「学術情報機構は、教育活動基盤資料として、電子ジャーナルを含む教育基盤雑誌、データベース、教育基盤図書を計画的に整備し、教育情報提供機能の一層の充実に努める」について、教職員が教育的・専門的立場で選定した図書と学生の視点で選定した図書を効果的に購入するシステムを構築し、教育情報提供の充実を図っていることは、学生の学習環境の整備に寄与しているという点で、優れていると判断される。

○　中期計画「山口大学独自のワークショップを中心としたFD（Faculty Development）の内容と方法を確立し、FD研修会の充実に努める」について、全学的FD研修会の機能強化に、授業技術、教育評価及びメディア利用等のテーマごとのアラカルト方式を導入し、研修会の充実を図ったことにより、FD 研修参加者が増加したことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「卒業時点で十分なコミュニケーション能力の獲得を可能とする「TOEICを利用した修学システム」を充実させるとともに、言語教育の実施機能を充実させることによって、外国語の実践的コミュニケーション能力を向上させる」について、能力別クラス編成や学部・学科ごとに認定基準を定めて、英語のコミュニケーション能力を向上させる取組を行っており、TOEIC スコアの平均点が上昇していることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「地域社会の中で、学生が主体的・自主的に取り組んでいる活動や学内インターンシップなどを「自己発見育成授業」として実施する」について、学生グループが自主的に企画した特定のテーマを審査選考し、資金面等の援助を行う事業や共通教育科目として「地域と出会う～ボランティアと自主活動～」を開講し、ボランティ

ア活動の単位化を行っていることは、学生の自主性を高揚させる点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「学術情報機構は、大学全体の情報基盤整備、情報化推進を戦略的に進める」について、事務組織の再編を行い、大学情報の流通マネジメント体制を一元化し、教育・学習等を行う上で必要な学術情報基盤の整備に対し、体制を強化したことは、情報化推進を戦略的に推進している点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画で「「キャリア・デザイン支援プログラム」による教育を入学時から実施する」としていることについて、新入生を対象に共通教育科目として「キャリアデザイン」、また、２、３年生を対象に「キャリアと就職」を開講していることは、早い時期から学生に進路選択に関する意識を持たせている点で、特色ある取組であると判断される。

(II) 研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、２項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「競争力があり今後の発展が大いに期待できる医工学、環境共生学および生命科学の分野を中心とした研究領域を支援する」について、医工学分野や医療関連分野の研究水準は、高いレベルにあり、特に環境共生学及び生命科学分野の研究組織を「スーパー研究推進体」等に選定し、戦略的に研究力の向上を推進していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「知的財産にかかわるデータベースを構築し、強い特許を創出する体制を整備する」について、「特許検索システム（YUPASS）」の構築や学生を特許インストラクターとして育成するシステムの開発等、新たな試みを積極的に実施していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「人文・社会科学系と自然科学系との連携・融合や、地域の特色を活かした山口大学の独自領域を開拓し、支援する」について、時間学研究所の設置や「やまぐち学」を構築していることは、独自の文理融合型の研究や地域の特性を活かした研究を推進している点で、特色ある取組であると判断される。

(III) その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「国際協力機構等の東アジアを中心とした事業へ積極的に協力する」について、国際協力銀行と協力協定を締結したことにより、中国内陸部の人材育成事業を推進し、特に中国内陸部の現職教員に対する人材養成として、68 名を受託研究員として受け入れたことは、国際社会に積極的に貢献している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「国際貢献に関する情報を収集、広報し、教育研究活動を支援する体制を整備する」について、「国際協力の里」基本構想を策定し、基本資料として「山大国際協力人財（材）BANK」を取りまとめ、「山口国際協力の里ネットワーク推進会議」や「国際協力活動推進プラットフォーム」を立ち上げて、積極的に開発途上国等に対する調査・研究を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

（２）附属病院に関する目標

臨床研修プログラムの充実を図るために、地域医療機関等を訪問し協力要請を行うとともに、コミュニケーション法の教育として模擬患者との診察実習や女性医療研修プログラムの作成等、積極的に実施している。また、分子生物学的、分子病態学的研究、再生移植医療等の推進を行っており、５件の高度先進医療も提供している。診療では、女性に配慮した総合診療等の実施や、山口医療情報ネットワークの IT を活用した地域医療連携等、独自の取組が行われている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教育・研究面

・　山口医療情報ネットワークを活用して、地域医療機関との遠隔カンファレンスの毎週開催や放射線科における検診の画像診断支援が行われている。

・　医工連携のシステムによる新たな医療機器の開発に積極的に取り組んでいる。また、臨床試験支援センターを中心として、臨床試験・臨床研究等のサポートを行う体制を構築、臨床試験の充実を図っている。

○　診療面

・　ミニ移植、経皮的カテーテル治療、内視鏡手術等、低侵襲医療を積極的に推進している。

・　病床再配置の見直しとして、集中治療管理室（ICU）（４床増）、外来腫瘍治療ベッド（４床増）、無菌病室（３床増）の増床を図るとともに、継続保育室（GCU）の新設（５床）等に取り組み、地域社会からニーズの高い分野における診療体制の整備・充実を図っている。

○　運営面

・　民間シンクタンクによる経営分析を実施するとともに、部署ごとにアクションプ

ランを作成して、経営指標に対する目標値を設定し経営改善に取り組んでいる。

・　診療情報管理士による病棟ラウンドを実施、在院日数の在り方や診療報酬請求書の指導・助言、コーディング勉強会の開催等、請求漏れ防止体制を強化している。

（３）附属学校に関する目標

附属学校は、平成 16 年度より附属学校運営委員会及び附属学校部を設置しており、附属学校運営委員会は審議組織として、中期目標・計画の推進体制の整備、各年度の計画の策定と実績評価に取り組み、附属学校部は業務実施組織として、共同研究に関する協議、研究課題の設定を行っており、学部と附属学校園が一体的に運営に当たるための組織体制を整備している。

各附属学校園において、地域の学校教員を対象とした公開講座や公開セミナーを積極的に開催し多くの参加者を得ており、また、附属特別支援学校は地域における教育基幹校園として先導的な教育・研究の成果を地域に還元しており、中期計画達成に向けた着実な取組が行われている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　平成 16 年度に教育実習部、教育企画部を設置し、学部教員・附属学校教員・学部学生を対象とした意識調査の結果を基に、実習の実施方法の点検及び評価方法の見直し、講義内容・方法の改善、教育実習の参加要件や実習中の学生のトラブル対応について取りまとめた「教育実習の参加要件等に関する指針」を策定するなど、学部との連携による教育実習プログラムの整備に取り組んでいる。

○　附属教育実践センターにおいて、附属学校園をフィールドとした学部・附属共同研究を公募し、「理科指導実践研究」や「放課後質問教育」等、平成 16 年度から 18 年度において、延べ 28 件の研究助成を実施している。また、これらの成果を「学部・附属教育実践研究紀要」及び「教育実践総合センター研究紀要」として発表している。

（Ⅳ）定員超過の状況

○　平成 16 年度から平成 19 年度まで一貫して人文科学研究科の定員超過率が 130 %を上回っていることから、今後、速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善を行うことが求められる。また、平成 19 年度において、技術経営研究科の定員超過率が 130 %を上回っていることから、今後、入学定員の見直しを含め定員超過の改善に努めることが求められる。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標
①　運営体制の改善
②　教育研究組織の見直し
③　人事の適正化
④　事務等の効率化・合理化

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　山口大学の中長期の将来像として、「明日の山口大学ビジョン」を策定している。また、「山口大学の学術研究推進戦略の在り方（プラン 2007)」を策定し、研究推進に関する全体計画、社会貢献活動の在り方等について、法人全体での取組を明確にしている。
○　学長のリーダーシップの下、学長裁量経費（戦略的経費）については、平成 19 年度で２億 4,500 万円（対平成 16 年度比１億 2,100 万円増）とするほか、各部局での自己点検と次年度の見直し等が必然的に行える体制の整備や、プロジェクトの複数年化ができるよう資源配分の工夫改善を行っている。
○　学部横断や外部に開かれた研究の促進を目的として、「研究推進体」制度を構築し、平成 19 年度までに 42 のグループを認定しており、外部資金の獲得等に進展するなど取組の効果が現れている。
○　女性教員の採用について、大学で定めた教育職員選考に関する基本方針に基づく積極的な採用、公募状況調査及び分析、登用に関する情報交換等の取組により、平成 19 年度の女性教員数は 121 人（対平成 15 年度比 19 人増)、女性教員比率は 13.9 ％（対平成 15 年度比 2.6 ％増）となっている。
○　国際企画課と留学生課を再編し国際課に一元化、基本委員会を廃止するとともに 56 の全学委員会を 40 に統合整理するなど管理運営組織のスリム化・効率化に向けた体制整備に取り組んでいる。
○　業務改善効果を上げた者、業務改善に資する優秀な提案を行った者に対し、学長表彰を行うシステムを導入し、平成 19 年度までに管理運営業務改善部門で 36 名を表彰している。
○　学外有識者から大学の業務運営、財務等に関して指導・助言等を受ける大学アドバイザリー制度を導入している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 38 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金その他の自己収入の増加
②　経費の抑制
③　資産の運用管理の改善

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　外部資金の受入れについて、大学独自の支援や地域活動を展開しており、産学で一体となり取り組んできた活動等が実を結び、平成 19 年度の共同研究、受託研究及び寄附金による外部資金は 26 億 4,262 万円（対平成 15 年度比 9 億 2,274 万円増）となっている。
○　その他自己収入では、大学開放を積極的に行い、大学開放授業、公開講座の増加、シニア・サマーカレッジの開催等に取り組んでおり、平成 19 年度は 378 万円（対平成 16 年度比 202 万円増）となっている。
○　電力契約の長期契約化、複写機の契約方式や電話料金契約等の見直しにより平成 19 年度までに 4,000 万円を超える経費削減を行っている。
○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 14 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
①　評価の充実
②　情報公開等の推進

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　山口大学自己点検評価システム(YUSE)を独自開発し、入力率を 100 %に維持するとともに、全教員を対象にした教育・研究・大学運営及び社会貢献活動等全般的活動評価に活用するとともに、ウェブサイトに公開するなど積極的に情報公開に努めており、さらなる活用が期待される。
○　大学が所蔵する学術資産に関するポリシーを策定し、戦略的に保存・継承を行うため、全学的に学術資産の状況調査を行い、所蔵学術資産継承事業報告書として刊行するとともに、学術資産のうち貴重品の一部を学長裁量経費により修復とデジタル化を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 9 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標
① 施設設備の整備・活用等
② 安全管理
③ 大学における情報の安全管理
④ 大学人としてのモラルの確立

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 部局単位のエネルギー使用量、施設実態調査情報等をデータベース化したマネジメントシステムにより施設整備に取り組んでいる。
○ 既存施設の利用実態調査に基づく面積の再配分を行い、自学自習スペースやコミュニケーションスペース等の学生支援スペース（390 ㎡）、共同利用スペース（4,800 ㎡）、学生の自主活動スペース等（2,300 ㎡）を確保している。また、スペースチャージシステムを導入している。
○ 事件・事故等緊急連絡・通報体制の策定や学生の実験・実習の安全性確保のため、ライセンス制（実験・実習に必要な最低限の基礎的な知識・技術を認定する制度）を導入するとともに、安全確保マニュアル等を作成している。
○ 研究費の不正使用防止のため、競争的資金等の不正防止に関する規則の整備、不正防止対策室、納品検収センターの設置等を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 19 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	人文学部	教育 1-1
2.	人文科学研究科	教育 2-1
3.	教育学部	教育 3-1
4.	教育学研究科	教育 4-1
5.	経済学部	教育 5-1
6.	経済学研究科	教育 6-1
7.	理学部	教育 7-1
8.	医学部	教育 8-1
9.	医学系研究科	教育 9-1
10.	工学部	教育 10-1
11.	理工学研究科	教育 11-1
12.	農学部	教育 12-1
13.	農学研究科	教育 13-1
14.	東アジア研究科	教育 14-1
15.	技術経営研究科	教育 15-1
16.	連合獣医学研究科	教育 16-1

人文学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 1-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 1-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部が人文社会学科と言語文化学科の２学科によって構成され、入学定員はそれぞれ 95 名と 90 名であり、専任教員は東アジア研究科教員も含め、２学科計９コースに所属しており、人文科学分野において幅広い教育を可能にする体制がとられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、７名からファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会が設けられ、FD 活動として、ピア・レビュー（授業公開）関連、IT 講習会、授業技術関連、教員による FD 活動に対するアンケート、学生による授業評価アンケート等を実施している。また、年度ごとの報告書も公表されて、教員による授業方法の改善につながっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、幅広い共通教育と専門教育のカリキュラムが必要十分な形で体系的にバランスよく組まれているのに加え、基礎セミナーの充実も図られており、また、教育職員免許状等の取得にも対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他大学・他学部での既修得単位、インターンシップやキャリア教育等による単位が認定され、編入学生、研究生、科目等履修生受入れにより、学生・社会に様々な教育の機会を提供している。また、留学先で修得した単位認定の制度をもつなど、学生の留学ニーズへ柔軟に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、普通講義、特殊講義、講読・演習が適切に編成され、専門科目における専任教員の担当率が高く、主要な授業科目に専任教員が配置されている。また、ほとんどの講読・演習・実習において少人数教育が実施され、教育設備も充実しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスの充実や履修登録の上限設定等単位実質化のための対応、組織的な履修指導、学習相談体制の構築、学習・自習施設の整備、授業料免除の特待生制度の導入を含む成績評価の見直し等が行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、多くの学生が３年次までに必要単位をとり、４年次には卒業論文の作成に専念するため、卒業論文の評価では優が多い。また、各種の免許・資格の取得者が多く、特に、社会調査士資格のためのカリキュラムが整備され、当該資格取得者が増加している。また、当該学部卒業生に対する「採用企業の評価及び満足度」も高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「学生授業評価」による当該学部の授業に対する学生の評価は「授業満足度」、「授業理解度」、「学習目標達成」に関してかなり高く、特に、「卒業生満足度調査」で卒業生の満足度が「学部専門教育の講義」、「学部専門教

育の演習・実習」等の面で高い率を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 19 年度において、進学者は少数であるが、就職希望者に対する就職者の比率は 95％で、主な就職先としてサービス関係、商業、教育、学習支援業、公務員等となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度の「卒業生満足度調査」では、回答者全員が、当該大学で学んだことが「有意義ないし大変有意義であった」と回答している。また、当該学部の卒業生に対する採用企業の評価及び満足度も高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

人文科学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 2-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 2-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科を二つの専攻によって構成して、それぞれに同数の教員を配置し、各４名の募集定員を設けている。また、各専攻内をいくつかの研究分野に分け、幅広い教養と専門分野における深い学力を養う体制をとっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、人文学部のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動と連動する形で FD 研修を実施しており、情報化に対応する IT 講習会も開いている。また、学生による授業評価アンケートも実施し、教育改善に取り組む体制を構築しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学部教育との連携と整合を図り、また、他専攻より１科目履修を義務づけて、体系的で複眼的なカリキュラムを組んでおり、少人数教育の場も確保しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、当該学部で開講されているインターンシップ及びキャリア教育等による単位修得を認定し（ただし大学院の修了要件とはしない）、また、学生の資格取得に対する要望に応えるため、教員免許及び専門社会調査士に関するカリキュラムを提供しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、

教育内容は、人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業科目における専任教員の担当率が高く、講義・演習ともに受講者数は10名以下で少人数教育が実施されている。また、演習の必修単位、選択科目、他専攻の科目の履修義務が、広い視野と見識の獲得のために適切に配置されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、修士論文発表会や各研究分野を母体とした学会等を組織して学生の研究発表を促しているほか、ティーチング・アシスタント（TA）を採用して教育補助に主体的に取り組ませたり、特待生制度を導入して学業を奨励している。また、自学自習環境についての整備も図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、留年者・休学者がごく少数に留まり高い修了率を維持している一方、多くの学生が１年次に必要単位をとり、２年次には修士論文の作成に専念し、修士論文において優良な成績を収めているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「修了生満足度調査」において、当該研究科の研究指導、通常の授業、研究室やゼミ等の教員を交えた人間関係の項目について他研究科と比較しても特に言語文化専攻において、非常に高い満足度を示している。また、

個々の授業に対する「学生授業評価」を実施しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職希望者の就職率（平成 19 年度）は 100%であり、また、就職先は専門的知識が必要とされる業種が多く、高度専門職業人を養成して社会各方面の要請に応えるという目的を果たしているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 20 年実施の修了生アンケートでは、当該研究科で学んだことが「現在の仕事に役立っている」、「有意義ないし大変有意義であった」との回答がそれぞれ 94%を占めるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 3-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 3-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、98 名の専任教員が配置されており、５課程、21 のコース・選修を構成して社会的要請に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、全学ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修委員会の活動並びに講師派遣、学生授業評価と教員授業自己評価の毎年度の実施により、常に授業改善に努めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、卒業時点での課程ごとの目標を入学時に学生に明示し、個々の授業との関係も把握できるようになっているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業科目履修及び転学部等において他学部との間に開放的な関係を維持するとともに、海外大学への派遣留学や教育委員会等からの研究生受入れやキャリア教育及び教育現場との交流を推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、コース・選修に応じた講義、演習、実験・実習の組合せを工夫し、主要授業科目を専任教員が担当し、実地指導講師やティーチング・アシスタント(TA)を活用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、特に学生に対して主体的な学習を促進するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、教員免許の取得率が高いこと、卒業率が高い一方で、留年率が低いこと、実技系で学生の受賞が毎年のようにあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、シラバス記載の学習目標の達成度に対して 53%、授業内容の理解に対しては 68%、満足度については 72%もの学生が授業の評価に肯定的な回答を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、教職への就職が増加傾向にあり、進路決定率も好転しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断され

る。

「関係者からの評価」については、卒業生の満足度調査において特に専門教育では満足度が高いこと、少数の学部内関係者ではあるが、公立学校管理職経験者による聞取りから教員としての基礎的能力があることが確認されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 4-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 4-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、２専攻、12 専修が設置されており、当該研究科に対する社会的要請から適切な編成内容であると判断できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教職や公務員・民間企業への就職において成果が見られるだけでなく、少数ながら進学者もおり、不明・その他の数が減少しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、修了者に期待される要件とそれを達成するための授業の位置付けが明示されていること、各専修ごとに体系的に授業が配列されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、当該研究科の目的である教育の実践的研究に鑑みた実践研究科目の設置、現職教員のリカレント教育、多様な背景を持つ学生に対する教育指導上の対応を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数の演習形式を主とし、講義受講後に演習を受講するように設定されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスの記載内容を工夫したり、授業以外での課題を課したり、学生をティーチング・アシスタント(TA)として活用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了率と専修免許状の取得率が高く、学習成果の発表数が増加し、美術展・コンサート等にも積極的に参加しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了時点での学生による評価で研究指導、授業、さらに研究室等の人間関係について満足度が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、教職への就職を始めとする公務員・民間

企業への就職やリカレント教育において成果が見られるだけでなく、少数ながら進学者もおり、不明・その他の数が減少しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、当該研究科修了時に実施された満足度調査において、「研究指導、通常の授業、研究室やゼミ等の教員を交えた人間関係」に関する満足度が、75％～91％となっており、修了生から高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

改善、向上しているとはいえない

当該組織から示された事例は２件であり、その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。

該当する事例の判断理由は以下のとおりである。

○「「教育学研究科修士論文抄」の発行」については、当然実施すべきことであり、「教育方法」に関連してとりたてて質の向上を示す事例とはいえないという点で、改善、向上しているとはえないと判断される。

経済学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 5-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 5-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、入学定員充足率 106%、専任教員一名当たり学生数 27.0 人と適正な水準を維持している上に、多彩な社会的要請に対応して学部編成を５学科１コースとし、経済・経営学科を中心に、経済法学科、国際経済学科など特徴ある学科編成を行い、さらに職業会計人コース（平成 16 年度）、観光政策学科（平成 17 年度）等を新設して、実践的経済人ニーズに対応するための組織編成努力をするなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、組織改善計画の策定と改組を学部内企画運営委員会が主導し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）は全学組織による研修会開催と学部組織によるピア・レビュー（年５回）実施など、組織的な改善努力が行われるとともに、『教員への授業改善アンケート』（平成 19 年 10 月実施、回答数 43、回収率 67%）では、学生授業評価実施率 93%で、この評価結果に基づき教育方法の改善を行った教員が 87%あることなど、日常的な授業改善努力を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、専門科目が基盤科目・総論科目・各論２・各論１に類型化され、段階的履修条件を与えていること、基盤科目と英語・初修外国語・情報処理演習を必修とするほか、TOEIC スコア（400、観光政策学科は 600 ないし 500）を卒業要件とすること、広い選択制により幅広い教養の獲得を工夫していること、さらに１年次の基礎セミナー、２年次以降の演習Ⅰ、演習Ⅱ、卒業論文演習など４年間一貫で密度の濃い指導体制をとるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、就職先企業からの要望（演習教育、教

養教育）に対して、４年間一貫の演習教育と共通教育・専門教育に広い選択制を置いて対応していること、他学部相互履修および山口県立大学との単位互換、海外の交流協定大学との留学生派遣・受入れをしていること、短期外国語研修など多様な学生の要請に応えていること、科目等履修生の受入れにより社会からの要請にも対応していること、さらにキャリア教育も全学的な組織的取組の上に、学部独自の就職支援委員会と就職支援室を設置し就職支援に取り組むなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義科目では１クラス人数を必修基盤科目で 200 名以下とする一方、大規模講義は開講頻度を調整することで受講者数の増加を抑制していること（300 名超のクラス数５）、演習では徹底した少人数化（定員 10～11 人、教員裁量で 14～15 名まで）を図り、修学指導や就職・進路相談までも含む密度濃い教育を行っていること、観光政策学科では実地研修を組み込んだ「プロジェクト演習」が配置され、特徴ある演習教育を形成していること、全学オンライン・シラバスの整備と利用が促進されていること、学生委員会による組織的な修学指導を行うとともに、ミスマッチを起こした学生に進路の再検討を促す「退学勧告制度」を用意していることなど、授業形態や指導方法を工夫するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、履修登録単位に上限（１セメスター26 単位、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）3.0 以上の者を除く）を設け、十分な授業外学習時間を確保し、この時間が各段階の演習で活用されていること、また「経済学部学生ゼミナール連合協議会」の活動（ゼミ対抗討論会の開催、学外ゼミとの交流）や「経済理論研究会」、「会計学研究会」、「情報処理研究会」など学生の自主学習組織への経済的支援・活動場所の提供を行い十分機能を果たしているなど、学生の自発的学習意欲に十分な配慮をするなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業率（修業年限４年 80%、８年 90%）、卒業者平均修得単位数（129.9 単位）、卒業者取得単位成績比（優 47.6%、良 24.1%、可 18.7%）など、卒業生は課程設計を満たす単位と学力を得ていると推察されること、教員免許取得、TOEIC 高スコア獲得、日商簿記資格取得、および公認会計士合格など能力付与の成果が見られることなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、既卒者から、幅広い教養としての専門科目と演習が評価を受けるとともに、経済学部で学んだ意義に対してもおおむね高い評価が得られるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、全学および学部組織や演習を通じた就職支援活動により、内定率が高い水準にあり、またその中で就職先の大部分を民間企業が占めるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業時評価において、満足度が全学部平均を上回り、学部独自の支援に対する評価が高いこと、既卒者の就職先に対する満足度も高いこと（全体の約 2/3）、就職先による卒業生評価も高い評価（キャリアレベル : 約 85%、人材面 : 90%以上）を得ていることなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 6-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 6-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、研究科の構成は、経済学専攻と企業経営専攻の２専攻で経済学専攻に公共管理コース（10 月入学・９月卒業、英語授業）が配置されるとともに、教員構成が高度専門職業人育成に向けた包括的なものとなっており、入学定員充足率および専任教員一人当たり学生数の水準もおおむね良好な範囲にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、研究会委員会の下に企画運営委員会を設置して大学院教育の新しいニーズの開拓と組織改善を提案・実施し、現代の社会的ニーズに対応してコース新設が予定されるなど、弾力的な組織再編が行われている。また、全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）組織に加えて、学部・研究科の FD 実施組織（自己点検・自己評価委員会）を持ち、ピア・レビューの実施、研究指導スキル向上のための研究報告会、研修会等、日常的な FD 活動を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、修士論文審査と最終試験合格を修了要件として定め、演習および第二演習を中心として、包括的で多彩な科目（162 科目）を配置するとともに、経済学専攻公共管理コースでは留学生を対象に英語による科目を構成するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他研究科、他大学大学院（海外を含む）での履修も可能とすることで、多様な教育ニーズに対応するとともに、在学生の約 66.7%を占める留学生の関心に対応した科目整備や、国際協力機構（JICA）の支援事業の一環と

して公共管理コースを設置して留学生ニーズに応えているほか、授業の夜間開講（全授業の約 20%）や長期履修学生制度による社会人ニーズへの対応などの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義・演習とも少人数教育が徹底し、受講者のレベルや関心に対して指導教員による履修指導が行われるとともに、シラバスのウェブサイト上の公開と配布、ティーチング・アシスタント（TA）の配置（延べ 51 名）をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、少人数教育において双方向コミュニケーションや課題提出などを求めることにより、学生の学習意欲を高め、学生の授業外学習時間を十分確保させるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、研究科全体の２年間修了率は 93.3%（平成 18 年度）の高い水準を示し、留学生や社会人の存在を考えると際立つ水準にあり、また単位修得と成績評価も少人数教育の特徴を反映する結果を示している。「修了時満足度調査」の結果も併せて判断すると、学生の身につけた学力等は良好な状況であると推察されるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「修了時満足度調査」によれば、研究指導および通常授業とも 4 点満点中 3.5 を上回る高い満足度（平成 18 年度）が示されており、

少人数教育の特性と授業外学習時間から、修了者が得た学業成果についても高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修了者の態様に応じた進路選択（一般学生：就職、社会人：継続就業、留学生：帰国、進学、日本国内就職）がなされており、それぞれに対応した教育目標を達成するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、直接の関係者たる修了者からは、進路に対する全般的支援に対する評価が高く、留学生の就職支援強化もこれに貢献するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 7-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 7-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成18年度に学科改組を行い、３学科のうち数理科学科を除く２学科を廃止し、３学科を新設し、４学科体制となるなど、学科の内容が時代の要求に対応するように工夫されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、授業評価の実施に加えて、ピアレビューを実施し教員間の意識改革を図り、授業改善がなされ、実施率も 98%と高い。また、地球圏システム科学科地域環境科学コースが日本技術者教育認定機構（JABEE）認定プログラムに追加認定されるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、４学科７コースの教育研究内容と主要授業科目が、当該学部のグラジュエーション・ポリシー（ＧＰ）を達成するために体系付けられており、各学科の教育課程の特徴と学習目標が明確であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他大学や高専、他学部、理学部が主催するサイエンス実習、そしてインターンシップ等の単位認定を行い、また数は少ないものの社会人入学の受入れ等を行っており、学生や社会からの要請へ適切に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各学科の特徴を活かした授業形態及び学習指導法の工夫があり、シラバスの記載項目も明確になっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生相談室やオフィスアワーのほか、学生が主体的に学習できる学習施設等を設けてあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、ほとんどの学生が３年次までに卒業に必要な単位を修得し、４年次に卒業研究に進んでいる。また、３年次から４年次への進級率も 70%台後半を示し、卒業率も 93.1%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業評価の結果、総合評価の満足度は高く、また全体として年々評価が高くなっている。さらにその結果は各教員に配付されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進学率が 40%前後であり、公務員、公立学校・私立学校の教員等多様な分野へ就職し、就職率も高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業する学生を対象とした全学アンケートからは、「卒業研究指導やゼミ等」、「研究室やゼミ等の教員を交えた人間関係」、「クラブ・サークルや日常の友人関係など学生同士の人間関係」等が相対的に高い評価となっている。また、採用企業の担当者からの評価が比較的高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 8-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 8-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育目標に沿って医学科と保健学科の２学科を設置してそれぞれ充足された学生数に対し、3.6 対１（医学科教員総数 141 名）、11.3 対１（保健学科看護専攻教員総数 29 名）、7.9 対１（保健学科検査技術専攻教員総数 21 名）の専任教員と、附属病院所属の教員 98 名、医療技術職員 86 名、看護職員 571 名が協力する組織を整備している。医学科では、医学科会議（教授会）・教育審議会の下に入試委員会（５部会）、教務委員会（12 部会）、学生委員会が置かれ、医学教育センターが支援する体制を、保健学科では保健学科会議（教授会）の下に入試委員会、教務委員会、学生委員会、キャリアデザイン委員会、FD 委員会が置かれ、それぞれ教育体制が整えられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学科では、医学科評価委員会、教育評価部会により、授業ごとの学生によるオンライン授業評価（医学教育総合電子システム；eYUME）とコース終了時の振り返り評価を行い、各教員及び学生に公開している。また、年度ごとに学生評価の高い教員を表彰している。ファカルティ・ディベロップメント（FD）は教務委員会の下にある FD 部会と医学教育センターとの協力で、公開授業参観（年十数回）、平成 19 年度実績で FD 研修会 14 回（５年に一回の医学教育ワークショップを含む）を行っている。保健学科では、学生によるウェブサイト上での各授業評価（授業支援システム）、講義・実習別評価を学内公開、FD 研修会を平成 19 年度実績で２回行って教育内容・教育方法の改善を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、２学科とも高学年にいたるまで共通科目と専門科目の

２本立て編成で教養科目の充実を図っている。医学科では、独自の考えで基礎臨床医学を臓器･系統別に再編成したコース･ユニット制カリキュラムを採用し、１年次は医学入門（体験学習を含む）、２年～４年次は基礎医学･臨床医学を融合した臨床実習前科目であり、３年次に「重点統合科目」、「社会医学」、「自己開発コース」（自ら設定した研究活動･社会活動）、「修学論文テュートリアル」（自己開発コース課題の発表討論と論文提出）、「特別専門講義」があり、４年次に「展開医学系科目」と「チュートリアル教育」といった独自コースが設けられている。５～６年次は参加型臨床実習であり、研究及び実地臨床を目指した独自の課程編成を行っている。保健学科看護専攻には看護師、保健師、助産師養成課程があり、検査技術専攻には臨床検査技師、細胞検査士養成課程がある。両専攻とも１年次から４年次まで共通科目、専門共通科目があり、２年後半から臨床実習が行われる。特色として「国際化」目標に沿って英語教育に TOEIC を受験させ進級判定資料としている。教養教育と専門教育とを並行させ、独自の専門教育課程の工夫がされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、海外の大学等との学術交流を積極的に行ってきており、医学科では米国オクラホマ大学医学部と、保健学科では韓国梨花女子大学校看護科学大学、タイのチェンマイ大学看護学部等との協定を結び、自由選択科目の単位互換を行っている。特に、保健学科では、独自プロジェクトとして看護･保健領域の英文国際雑誌 Nursing and Health Science の刊行、アジア太平洋保健医療共同組織（APANHSL）の結成、看護学名誉学会（STTI）日本支部設立等の取組を行っている。保健学科検査技術科学専攻では３・４年生対象に県内外の医療機関や検査機関での職場体験実習を実施し、県内外、海外教育機関との交流に努めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、２学科とも電子シラバスが活用され ICT 活用による授業支援システム（医学科の eYUME、保健学科の授業支援システム）が整備されている。医学科の全授業科目は、講義、演習、実習･実験が組み合わされ、少人数チュートリアル学習を基礎･臨床科目で採用、保健学科では、講義、演習、臨地実習を必須とし、教育内容に応じた少人数教育が取り入れられている。教育に必要な教材が電子シ

ラバスから利用でき、DVD 動画による授業支援がある。英語教育にネイティブスピーカーによる英会話講座を取り入れている。講義、演習、実習、少人数テュートリアル学習が適宜組み合わされ、授業支援システムが整備されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、医学科３年次７～12 月の６か月間、「自己開発コース」に集中させ、学生自らが設定した研究活動ないし社会活動を通して自己学習能力を高める取組があり、平成 19 年度実績では、学会発表３件、研究論文発表２件がある。４年次の展開医学系チュートリアルでは、一症例のシナリオに基づき（個人学習、グループ学習、ディスカッション、講義、最終発表）からなる一週間学習の繰り返し学習があり、独自の臨床推論能力開発がはかられているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、医学科の進級及び卒業判定は、医学科会議（教授会）において行われ、各学年進級及び卒業ともに 90%以上である。また、全国 CBT 試験の平均点も全国平均を２～５点上回っている。保健学科では、保健学科会議（教授会）が進級判定を行っており、進級はいずれも 90%以上であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学教育センターが平成 15 年度から行っている卒業生満足度調査では、平成 18 年度実績で学習･生活環境 61%、学生生活支援 50%、多人数授業 57%、専門少人数授業 72%、人間関係 84%の学生が「満足」している。学生生活支援を除く項目について平成 16 年度調査より改善が認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、医学科では平成 19 年度卒業生は 96 名で、医師国家試験に 83 名が合格（合格率 86.5%）、全員が初期臨床研修へ進んだ。これは平成 16 年度から平成 18 年度実績をやや下回っている。保健学科について平成 19 年度では、看護師（卒業 81 名）、保健師（卒業 92 名）、助産師（卒業７名）、臨床検査技師（卒業 37 名）の各国家試験はいずれも 93%以上が合格、その後看護専攻の 92%が病院、自治体、企業へ就職、進学者は２名であった。検査技術専攻では 78%が就職、進学者は８名であった。この状況は最近大きな変化はないなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、医学科で平成 19 年 11 月に山口県内外の医療機関 58 機関にアンケート調査を行い、卒業生のいる 33 機関（医学科）、16 機関（保健学科）からの回答を分析している。総合的満足度について 90.9%（医学科）、93.8%（保健学科）が「やや満足」又は「満足」との結果を得ている。各設問では医学科、保健学科の順に、学習の意欲 94%と 100%、社会的役割の認識 97%と 94%、チーム医療への参加ともに 94%、地域医療 91%と 81%、判断力 97%と 100%、患者・同僚への配慮 100%と 94%、専門知識 97%と 94%、診療技術ともに 100%、先進的医療への対応 85%と 81%が「やや満足」以上で、「やや不満」「不満」はいずれも９%以下であったなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学系研究科

Ⅰ　教育水準　..... 教育 9-2

Ⅱ　質の向上度　..... 教育 9-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年から医学とその学際領域（工学、理学、農学、保健学）を統合化し、システム統御医学系専攻（医学博士課程４年）、情報解析医学系専攻（医学博士課程４年）、応用医工学系専攻（博士前期課程２年と博士後期課程３年）、応用分子生命科学系専攻（博士前期課程２年と博士後期課程３年）、保健学専攻（博士前期課程２年と博士後期課程３年）の５つの専攻編成としている。平成 19 年度実績では、学生数は医学博士課程定員 35 名、入学者 31 名、博士前期課程定員 76 名、入学者 108 名、博士後期課程定員 29 名、入学者 43 名で研究科全体の収容定員を上回っている。他方、専任の教員組織は、教授 80 名、准教授 45 名、講師 24 名、助教 78 名の計 227 名で、医学系 142 名、理学系 11 名、工学系 21 名、農学系４名、保健学系 49 名である。女性教員は 23.3%。外国人教員は 2.6%。他に９名の客員教授がいる。研究科は医学系研究科教授会で審議決定しており、その下に医学及びその学際領域の教授からなる分野ごとの代議員会、専攻系委員会、専門委員会等で審議運営にあたっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、各専攻ごとの専攻系委員会及び専攻系代表者からなる大学院委員会（月一回の定期開催）において対応する体制が取られている。研究科主催のファカルティ・ディベロップメント（FD）は平成 19 年度から年２回の研修会を催し延べ 140 名の参加があった。医学部医学科の授業評価システムを研究科学生にも活用、医学科学生と同様の運用をしており、適切な体制を構築しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、各専攻ごとに修了までに身に付けるべき資質･能力（graduation policy）を策定し、どの授業で取得すべきかカリキュラムマップで検証している。短期インターンシップ･臨床体験実習等の動機付け科目（博士前期）とともに、倫理科目（生命倫理学特論、医療情報倫理学特論、選択必修）、オムニバス形式の医学共通科目、基礎科目 II（研究方法論）の履修、理工学研究科の共通基礎５科目（知的財産権特論、ネットワーク情報倫理特論等）の履修推奨、出身学部での専門分野以外の分野の科目履修を設定している。また、医学博士課程、博士後期課程では、最先端ライフサイエンス研究科目（必修）でのプレゼンテーション能力養成、展開合同演習での幅広い視野を持った研究促進、長期インターンシップでの実践研究能力養成を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、「教育方法の特例実施」（医学博士課程に約 20%の社会人大学院生を受け入れ、集中講義、土日開講、夏季・冬季休暇時の開講）、「医工融合実践教育プログラム」（医工連携教育に国外大学への短期インターンシップを取り入れたプログラムで、「魅力ある大学院イニシアチブ」選定事業）、「臨床体験実習、短期インターンシップ」（医学部以外の学生や卒業生が医学を学べるプログラムと院生が企業･研究所での体験学習するプログラム）、「がんプロフェッショナル養成プラン」（岡山大学や中国地方の医療機関との連携で行うがん専門医養成プログラム、平成 19 年度厚生労働省選定事業）、「臨床研究人材養成コース」（新薬や新医療技術開発のため、質の高い臨床研究担当医師や臨床研究コーディネーター等研究支援人材の養成のためのコース）、「修復医学教育研究センター」（心臓･血管･肝臓の臓器回復のための修復医学教育研究センターで、機能修復制御因子（鍵因子）による診断･治療法の開発）等を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、形態的、生理学的、生化学的、遺伝子工学的、統計的研究手法についてオムニバス形式の授業（講義、実習）が行われ、電顕、質量分析等最先端技法の操作まで行われる。他に、ティーチング・アシスタント（TA）やリサーチ・アシスタント（RA）として下級生の指導体験、異分野融合教育の工夫として

医学部卒以外の大学院生に臨床実習の体験、大学院生が立案した研究の計画、見直し、成果について学内専門家によるオンライン化ピアレビューの実施、学位論文指導（基礎演習、予備審査）等の工夫がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、プレゼンテーション能力や討論能力促進のため「最先端ライフサイエンス研究科目」を必修としている。研究科が設定した学会、講演会への出席に２ポイント、学会発表に４ポイントを単位認定に加えることで積極的学習を促している。また、講義、実習の予備教材として授業内容の DVD 化、病理組織標本のバーチャルスライド･システムを行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位取得状況では、博士前期課程の退学者は数名以下で少なく 95%以上が修業年限内に修士を取得している。博士後期課程は、56～57%が、医学博士課程では 27～47%が修業年限内に博士を取得している。後２者は低い取得率である。博士学位の論文水準として査読付学術雑誌に掲載されることを義務付けており、平成 19 年度実績では 37 論文中 36 論文が英文雑誌に掲載され平均インパクト・ファクター（IF）は 2.422 で、最近数年間では大差ない変化であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 16 年から大学教育センターにより主として博士前期課程の学生の卒業時満足度調査を行っており、平成 19 年３月調査で全体的満足度 65%、学業に対する総合評価 74%、生活環境 65%、学修･生活支援 62%、授業･研究支援 74%、進路支援･相談体制 62%、人間関係 73%で、学修･生活支援、授業･研究支援、進路支援･相談体制に改善がみられるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、博士前期課程修了者の 99.1%、後期課程修了者の 89.6%、医学博士課程修了者の 97.4%が就職できており、前期課程修了者の約１/３が進学している。内訳は、研究者ないし大学教員としての就職は少なく、多くは医師･歯科医師、医療技術者であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度勤務先関係者調査では、医学系出身者については 91%が「どちらかといえば満足」以上の総合的勤務状況の評価を得ており、学習意欲、社会的役割の認識、チーム医療、地域医療、判断力、患者･同僚への対応、専門知識診療技術、先進医療のいずれも 94%以上の高評価である。保健学系出身者では、総合的勤務状況は 94%、項目別のうち地域医療と先進医療がともに 81%、その他の項目は 94%以上の高評価である。工学系修了者での関係者評価では、４から０査定で採用満足度 3.5、今後の採用希望４の高評価であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 10-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、社会のニーズを踏まえ学科の再編、入学定員の見直し、専任教員の適正配置を実施するとともに、センター、サロンの設置により教育実施体制を整備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会、学生・教員による授業評価、授業のピアレビュー、優秀授業表彰を通して教育や授業の改善を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育目標を明示しそれに沿ったカリキュラムを整備しているとともに、１年生に大学生活の目標設定を促すセミナーを実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生からの多様な要求に対して編入学制度、単位互換、インターンシップ、国際交流協定を整備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態の組み合わせは教育効果を配慮して適切に行われ、学生への履修指導は、学生・教職員一体となって行う方式を取るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、一つの学科では、チューター制度、学生相談制度、研究室体験配属、質問歓迎アワーという特色ある制度を設けて学生指導を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、厳正な進級評価を行うとともにマンツーマンによる丁寧な指導体制をとり、卒業率も 90%から 100%となるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、５段階による選択式の学生による授業評価の結果では、「そう思う」から「ややそう思う」の肯定的な意見が、「シラバスに記載された学習目標の達成」が 58%、「授業の内容の理解」が 53%、「授業に対する満足度」が 56%である。反対に否定的な意見はいずれの項目も 10%を切っており、授業の成果に関する学生へのアンケート評価の結果としておおむね肯定的な結果を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院進学率は50%を超えている。また、就職希望者の就職率は常に95%以上であり、就職先は製造業が多く、電気・電子機械機器、建設業、情報・通信業等の業種にて、専門的・技術的職業従事者となるものが多く、その他サービス業、教育関係及び公務員などの就職者もおり、多様な分野に専門的知識を持った技術者を輩出しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生、就職先企業による満足度に関するアンケートを実施しており、おおむね良好な結果を得るなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理工学研究科

Ⅰ　教育水準　..... 教育 11-2

Ⅱ　質の向上度　..... 教育 11-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院の重点化・再編により、理学系と工学系の独自性を活かした専攻と、理学・工学・医学の連携・融合を目的にした専攻で構成し、併せて学部夜間コースを廃止して定員の一部を大学院へ移行するなど、社会の要請と当該大学の教育研究の目的に沿った構成になっている。学生と教員との比率も適切な範囲にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、全学的なファカルティ・ディベロップメント（FD）推進体制が整備されているほか、学生による授業評価とそれに基づく教員自身の授業自己評価を踏まえた授業改善を図る仕組みが構築され、大学院教育の実質化への取組も開始されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、グラジュエーションポリシー（GP）に基づき、授業科目を研究科共通基礎科目群、専攻系共通科目群及び先端科学技術科目群に区分して体系的な教育課程を編成している。留学生に対するダブルディグリープログラムや日本語コースの設置、国際性を養うための工夫や外部講師による特別講義を配置し、長期及び短期のインターンシップを実施するなど、多彩な教育課程を編成しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生のサイエンスワールドへの主体的参加を促すための単位認定制度の導入や、短期あるいは長期履修制度による学生の特性に応じた多様な履修を可能とする制度を整備している。インターンシップによる企業での実

体験を通して社会性を養いキャリアパスの形成に応えている。社会人を対象にしたサテライト講義の実施や社会人学生の積極的な受入れを行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、専門分野に閉じた閉鎖的環境を排した分野横断的な教育を推進するために特別講義やゼミナールを必修とし、MOT 科目群の開設や演習形式のものづくり教育を推進するなど、幅広い能力を併せ持つ人材育成のための工夫がみられるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、英語力アップのための取組として「英会話特別授業」を設けて実績をあげている。多くの学生をティーチング・アシスタント（TA）やリサーチ・アシスタント（RA）として採用するなどし、職務遂行を通して学生の主体性を引き出す配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了時に学生が身に付けておくべき資質・能力を専攻ごとに GP として定めており、それに対する修了率は大学院博士前期課程で 90%以上、大学院博士後期課程で 45%前後と、いずれも標準的なレベルを維持している。教育職員免許の実績もほぼ定常的にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の授業評価においては、学習目標の達成度、授業内容の理解度、授業に対する満足度等はいずれも高く、修了生の満足度評価においても、重要性の高い論文指導やゼミナールに対しては高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程修了生の就職率だけでなく、大学院博士後期課程修了生の就職率も高く、かつ多くが専門性を活かせる職種に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、理工学研究科修了生に対する「幅広い知識」、「専門知識」、「専門的実践力」、「討論能力・思考能力」等についての就職先企業アンケート調査により、０～４の５段階評価ですべての項目で３以上であり、理工学研究科修了生に対する総合的な能力への期待に応えていると評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 12-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 12-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員組織は、他部局を本務とする教員と連携し、多岐に渡る農学及び獣医学教育分野を包括的にカバーし、先進的指導ができるよう構築している。また、獣医学科では国家試験科目に対応する教員体制の整備が順調に進んでおり、学生数も適正な状況にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、統一的様式に従った学生による授業評価、大学教育機構が実施するファカルティ・ディベロップメント（FD）講習会、ピアレビュー形式による授業評価などを実施しており、教育内容等の改善に向け構築され、改善が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、１年次からくさび型に配当した専門教育、高年次にも配当した共通教育によって早期から専門性を自覚させるとともに高い教養を習得させるカリキュラム編成は相応に評価できる。最終学年では卒論研究に取り組み、問題解決能力を身につけさせ、専門性と教養を習得できるカリキュラムを編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、推薦、編・転入学、科目等履修生、研究生の入試制度によって、多様な背景や勉学希望をもつ学生を受け入れている制度は優れている。また、中四国地区大学の連携によるフィールド演習や他学部との単位互換制度も評価できる。さらに、インターンシップやキャリア教育を行い、開放授業等で社会の要請に応えている。獣医学分野では、大学間協定に基づく中興大学との学生交流をはじめ、国

際的にも貢献しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実験及び実習を効果的に組み合わせて知識、技術と思考方法を習得させている。専門への動機付けや興味を早期から持たせるため、学科全教員による総論や概論を１年次に、基礎実験を２年次に開設し、高い教育効果を上げている点、実験・演習科目を比較的少人数にし、ティーチング・アシスタント（TA）を配置することできめ細かく学生の教育に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、授業シラバスの整備により自主学習が効果的にでき、レポートや小テストを通じて、自主的学習を促す指導を行っている。低学年次配当「基礎セミナー」では少人数で課題研究及び発表をさせ、問題発見や解決の自主的思考能力を養っている。各学年に修学指導教員を配置し、主体的学習を促すべく個々の学生に指導を行っている。講義室における視聴覚環境が整備されている。表彰制度や特待生制度により、学業を奨励しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、各学年への進級基準を設定しており、単位修得状況から、３年次までに教養、専門基礎及び専門に関する知識・技術を身に付け、４年次の卒業研究で課題発見解決能力を身に付けていると判断される。進級状況は

95%を超え、標準修業年限内の卒業率は 80%以上を維持しており、獣医師免許国家試験の合格率は 93.5%であり、学位の取得状況から、卒業生は満足のいく能力を身に付けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「卒業時の満足度調査」及び「卒業生に対する満足度調査」では、人間関係の他、授業、研究支援、学習支援、生活支援及び学習、生活環境について、半数以上の学生から評価されている。また、既卒業生による農学の知識の習得に「実験」が効果的であったとしている。また、卒論研究などによる問題解決能力の習得向上は高く評価されたなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職希望者の就職率は平成 19 年度は 96.3%以上で職種も多岐にわたっており、農学と関わりに深い食品、医薬品、農業関連が多い。進学率も非常に高く卒業者の半分近くであり、教育の充実と期待される成果が上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、企業等の採用担当者と教員との意見交換では、卒業生が評価されており、既卒業生からは、専門知識の習得や問題解決能力の向上があったとされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、

または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 13-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 13-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を下回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、留学生特別プログラムを設けている点は評価できるが、学部から６年一貫性の教育・研究を実施している点で分野並びに教員組織に特徴がみられない。提出された現況調査表の内容では、農学研究科が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、期待される水準を下回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、研究科独自のセミナー型 FD 研修プログラムを開催しているが、当該ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修は学術的な研究発表が主であり、全体的に教育内容、教育方法の改善に向けた取組に関することは行われていない。提出された現況調査表の内容では、農学研究科が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、期待される水準を下回ると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を下回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学部と大学院との６年一貫教育を謳っているが、当該大学院の特徴的な部分が見えてこない。提出された現況調査表の内容では、農学研究科が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、期待される水準を下回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、留学生特別プログラムやインターンシップが実施されており、平成 19 年度に Brawijaya 大学（インドネシア共和国）との協定を締結しており、平成 20 年度からダブルディグリープログラムを実施予定である。また、一時的なものであるが、研究科の開設科目を受講している学生が、多く見受けられるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教育課程を、特論、特別講義、特別実験及び特別演習で構成しており全学生に履修させ、これらの授業科目を基盤に修士論文の作成を行わせることで、文献調査能力、プレゼンテーション能力、英語コミュニケーション能力及び課題探求解決能力を身に付けさせているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、セミナー等で質問を受け議論する場を与え、事前の学習や準備を課しており、学外の研究者による講義によって幅広い知識を付けさせ、修士論文研究を自ら深めていく力を付けさせている点、ティーチング・アシスタント（TA）制度を設けているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 18 年度の状況ではあるが、進級率は約 96.7%、修了率は約 96.7%、学位取得率は約 96.7%であり、いずれも高い水準にある。また、各種学会から学生賞、学生奨励賞を受賞しており、学生の資質・能力に対する客観的評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、課程修了時及び修了後のアンケート調査において、学生からは修士論文作成により問題解決能力の向上があったとの評価があったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率は 85.2%であり、専門的技術を求められる企業や公務員等へ就職している。少数であるが、鳥取大学連合農学研究科（大学院博士課程、山口大学は構成大学）及び当該大学の医学系研究科にも進学しており、修了生がさらに専門を極め、かつ専門を活かした就職を望んでいるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、提出された現況調査表の内容では、企業側等からの聞取り調査又はアンケート調査に関する記述は無いが、修了生に対するアンケートを実施し、多くの学生から農学の基礎知識が身に付いたとの回答を得ており、また、修了生の就職状況からも一定の評価が得られていることが認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

東アジア研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 14-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 14-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、東アジア比較文化コース、東アジア経済・経営・法律コースを置き、平成 19 年度から東アジア教育開発コースを開設した。教員組織として、基幹講座の比較文化講座と社会動態講座、協力講座の社会システム分析講座を有し、専任教員 41 名を配しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、運営委員会、教務委員会、FD 委員会を設けて教育内容や教育方法の改善を検討し、特にコースごとの FD 研修会を開いているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、１年次の基盤研究、２年次のプロジェクト演習の履修を義務付け、準備論文の報告会などスケジュール設定に力点を置いて３年間で学位取得できるような編成になっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、平成 19 年度から教育開発コースを新設し、カリキュラム編成に改善を加えた。社会人学生に長期履修制度を設ける一方、優秀な学生には短期修了制度も用意しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断さ

れる。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、１名の学生に主・副３名の指導教員が指導に当たっていること、学位に至るプロセスを明示し、学位授与基準を明確化することにより学生に学位取得の意識を形成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生を東アジアプロジェクト研究に参加させ、教員とともに海外フィールドワークを経験させている。また、研究科で開催する国際シンポジウムに学生を研究協力員として参加させ、運営上の役割を与えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 19 年度までに、大学院博士課程入学後３年で学位を取得した者は 43.8%であり、過年度生を入れれば学位取得率は５割を超えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了生を対象に行ったアンケートでは、回答者は約半数であったが、総合的な観点において「本研究科を修了したことについての満足度」は、「非常に良かった」との回答が 85%にのぼっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準を下回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成19年度の修了生９名の進路は、４名が大学・高等学校教員、１名が研究員となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、外部評価の結果及び個別の事例が挙げられたのみであり、修了生及び就職先の関係者を対象とした調査等を通じた教育成果の把握がされていない。提出された現況調査表の内容では、東アジア研究科が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、期待される水準を下回ると判断される。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

技術経営研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 15-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 15-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、主として社会人を対象とした専門職大学院として、社会人学生が学びやすい環境で高度な専門知識を身に付けたいという期待に対して、46 名の在学生のうち 42 名が社会人であり、また学びやすい環境として土日の集中講義や、北九州教室、広島教室の開設等に取り組み、修了生からのコメントから判断しても、相応の期待に応えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、山口大学のファカルティ・ディベロップメント（FD）プログラムに参加するとともに、学生の授業評価を基に授業改善を実施し、また、平成 19 年度には技術経営系専門職大学院協議会が策定した「MOT 認証評価基準案」を基に自己点検を実施するなど、教育内容・方法の改善に向けた取組を積極的に推進しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、グラデュエーションポリシーやカリキュラムマップを策定・公表し、土日の集中講義やサテライト教室の開設等のきめ細かな教育課程の編成が認められ、またケースメソッド教育を実践し修了生からの評判も上々で、期待以上の成果を上げているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生の要請に応え土日の集中講義の導入や長期履修制度の導入を行っており、また地方企業の要請に応えサテライト教室を開設

するなど、その積極的な対応は高く評価でき、またこの取組に応じてサテライト地区の学生も大きく増えているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学外専門的実務家によるオムニバス講義等授業形態も多様で、また宇部キャンパスと北九州教室、広島教室の３教室間でテレビ会議システムを導入し、情報コンセントやパソコン、ネットワーク環境の整備がなされている。さらに、平成 17 年度と平成 18 年度の同期の学生授業評価結果をみると、おおむね評価は上がってきており、相応の工夫がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、ケーススタディを中心にした主体的学習を展開し、学業成績優秀者に対する授業料免除制度を設けているなどの相応の取組がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、標準修了年限内修了率は他の専門職学位課程の平均値 81.8%と比較して 93.8%と高く、また学生の自己診断において 55%（どちらともいえないは除外）の学生がシラバスに記載された学習目標を達成したと答え、67%（どちらとも言えないは除外）の学生が授業内容を理解したと答えており、相応に水準を

確保しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の評価において、74％が満足している（そう思う、ややそう思うとの回答の合計）と答えており、不満足（そう思わない、余りそう思わないの合計）は９％にとどまり、相応の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、社会人学生は 90％程度であり、大学卒業後就職せずに入学した学生については修了後 100％就職しており、相応の水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、経済産業省による「MOT 教育プログラム試行評価事業」及び技術経営系専門職大学院協議会による「技術経営系大学院認証評価試行」による評価において相応の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

連合獣医学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 16-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 16-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、研究科の３講座に 100 名の研究指導教員を配置して、獣医学の基礎から応用までの多彩な専門分野を活かした講座編成が整備されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、４地域に分散している教員組織において､教育活動の評価及び質の改善を図るため UVY ネットワーク誌を作成、公表していること、代議員会に学務担当を配置して教育の実質化、e-learning システム、教育支援等の教育方法の検討体制を整備して、教育内容及び方法の改善を推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、特別講義、特別演習及び特別実験で編成する体系的なカリキュラムから、高度な専門的能力と豊かな学識や広い視野を身につけるための教育課程が体系的に編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、10 月入学制度の導入による社会人入学の実現、開発途上国からの留学生を積極的に受け入れ、英語による授業の開設により対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、指導教員の厳格な資格審査により研究指導体制の充実を図っていること、合宿形式・学会形式の獣医学共通ゼミナールを実施しており、その教育効果に対して学生から相応の評価を得ているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、獣医学共通ゼミナールの一環として、学生による研究発表を義務付け、学生の主体的な学習意欲を涵養していること、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）を適切に採用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、標準年限内に博士論文として確実に結実させることができる教育課程を編成し、修了生の学力や資質を保証するため厳格な審査制度を整備しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、獣医学共通ゼミナールについては学生のアンケート調査や授業評価を実施しており、その教育効果に対して学生から相応の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、日本人修了生の 90%以上が国公私立の獣医系大学教員、研究所、民間動物病院等に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生に対するアンケート調査を実施し、回答標本数が少ないものの、学業の成果に関する高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	人文学部・人文科学研究科	研究 1-1
2.	教育学部・教育学研究科	研究 2-1
3.	経済学部・経済学研究科	研究 3-1
4.	理学部	研究 4-1
5.	医学部	研究 5-1
6.	医学系研究科	研究 6-1
7.	工学部	研究 7-1
8.	理工学研究科	研究 8-1
9.	農学部	研究 9-1
10.	農学研究科	研究 10-1
11.	東アジア研究科	研究 11-1
12.	技術経営研究科	研究 12-1
13.	連合獣医学研究科	研究 13-1

人文学部・人文科学研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 1-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 1-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの原著論文・著書数が 0.98 件、学会・研究会等での発表や講演数が 1.68 件である。また、平成 19 年度の共同研究への参加者は、延べ 12 名である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金において、基盤研究（C）を中心に伸びが見られ、近年では基盤研究（A）、（B）も獲得している。また、研究体制強化のため、平成 19 年度に研究推進室を設置しているなどの相応な成果がある。

以上の点について、人文学部・人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、人文学部・人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、ドイツ悲劇論、英語学、民俗技術・意匠論等の各研究において国内の当該研究分野における重要な賞を受賞するなどの相応の成果を収めている。社会、経済、文化面では、研究成果の社会還元、研究内容の社会への紹介により文化の向上・人文知の普及を図ることを目指し、文学の諸分野、語学、性教育等の分野において社会的に影響力のある優れた成果を上げており、それらを踏まえた社会貢献活動を推進しているなどの相応な成果がある。

以上の点について、人文学部・人文科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、人文学部・人文科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

Ⅱ　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部・教育学研究科

Ⅰ　研究水準　..... 研究 2-2

Ⅱ　質の向上度　..... 研究 2-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数（演奏活動等を含む）は約３件であり、附属学校園を利用した研究も盛んである。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）は年平均 22 件（約 2,300 万円）である。この他、文部科学省の教員養成関連の競争的資金を年平均２件、年 2,180 万円を獲得していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、教育社会学、社会科教育学、音楽教育学において先端的な研究成果が生まれている。優れた研究成果として、家族崩壊後に子どもが遭遇するスティグマの特質とその解消困難に関する実証的・理論的研究がある。社会、経済、文化面では、芸術、幼児教育学、家政教育学、社会教育学、体育科教育学において成果が上げられている。優れた成果として、技術と科学を融合したコンピュータ・グラフィックによる映像作品、教育学部・教員・親対象に編集された小学校レベルの地理教育に関する成果があることなどは、相応の成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部・経済学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 3-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 3-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究業績の状況については、教員一名当たり著書論文等の数は、平成 19 年度約 1.9 件で、適正な水準を示しており、また、研究発表・講演数も適切な水準にあり、継続的研究が行われている。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度科学研究費補助金は、基盤研究（B）１件、同(C）５件を含む合計 13 件、1,184 万円を獲得し、安定的な採用数を確保するなど、一定の研究水準を維持している。山口大学経済学会及び山口大学東亜経済学会の活動については、経済学部教員を中心として両学会を作り、研究会・講演会の開催、学会誌の発行（「山口経済学雑誌」（年６回)、「山口経済研究叢書」（随時)、Discussion Paper Series（随時)、「東亜経済研究」（年２回)、「東亜経済研究叢書」（随時))、「山口大学経済学部叉書」出版助成、「学部内定例研究会」開催など、研究成果発表の場を提供することから異分野交流による研究の活性化まで広範な活動が見られる。研究成果の社会への還元については、東アジア研究の成果還元を「EAST ASIAN FORUM」の発刊、「東アジア国際シンポジウム」の開催などを通じて行う一方、技術経営研究科と共同した事例研究会「技術経営とイノベーションの会」の開催、中小企業実態調査の実施等、地域経済活性化にも貢献している。研究成果の教育への還元については、経済学部の特徴である実学領域の研究成果をユニークなテキスト等の公刊に活かしているなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、記載された成果は、学術面では、「比較優位の原理」に基づく国際経済学を学説史の視点から批判的に検討したもので、「貿易・貨幣・権力－国際経済学批判－」や、学部・研究科の特徴である東アジア研究に関連した業績（下関越荷方に

関する再検討、Japanese Multinational Corporations in East Asia: Status Quo or Sign of Changes?、日本の FTA 戦略の現在、江戸期呉服商の仕入変革－我が国における百貨店業態成立の史的背景）などの優れた業績がある。社会、経済、文化面では、日本のワーク・ライフ・バランス政策の特殊性を指摘した業績（未婚化が家族ケアに与えるインパクト－いま、なぜ、ワーク・ライフ・バランスが求められるのか－）があるほか、TOEIC テストに準拠した全学共通の教科書や TOEIC 関連の教材（Intensive Training for the TOEIC® Test、新 TOEIC テストはじめてでも 600 点が取れる！、TOEIC テスト最短最速攻略テク）といった、大学教育に活用可能であり、かつ一般向けにも使用される教材の開発などの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は 1 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

理学部

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 4-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 4-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究活動の実施状況については、71 名の教員で研究活動を進めており、平成 16 年度から平成 19 年度までの原著論文の発表数は、一名当たりの論文数は年平均約 1.5 件である。研究資金の獲得状況について、平成 16 年度から平成 19 年度までの科学研究費補助金は、基盤（A）等の高額なものは少ないものの、採択率は教員数の約 42～49%であることなどから、ある程度の外部資金を獲得していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、基礎研究の領域で研究成果がでており、僅かだが卓越した成果があるほか、優れた研究も見られる。社会、経済、文化面では、サイエンスミニカレッジ、旬な研究等で、ウェブサイトやマスメディアを通じ、地域の特性を活かした研究が一般に紹介され、地域社会等へ貢献している。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

Ⅱ　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 5-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 5-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、医学科と保健学科の２学科５専攻に 191 名の専任教員(助教以上)が所属、他に３寄附講座５名がいる(平成 18 年度機構改革で医学系研究科配属)。平成 16 年以降の論文･著書実績数には著変なく、平成 19 年度の論文･著書数は、総数 950 件、教員一名当たり 5.0 件である。内訳は原著論文 509 件(１名当たり 2.66 件)、単著書５件、共著書 128 件、総説･解説･論評等 267 件であり、原著論文の IF については未記載である。知的財産権の出願状況は、平成 16 年度から増加傾向にあり、平成 19 年度に国内特許 15 件、国外特許４件が出願され、国内特許１件が取得された。研究促進のため研究施設総合科学実験センター(４施設)と図書館を 24 時間利用可能にし、分子生物学と医工学研究リソースとの異分野融合連携施設「修復医学教育研究センター」を立ち上げ、基礎･臨床研究からトランスレーショナルリサーチの推進、難治性疾患の病態修復治療の開発を立ち上げた。全学の取組として「研究推進体」の認定制度があり、全学で 57 件のうち医学関係で７件が認定され、「スーパー研究推進体」４件中２件が選ばれている(国際肝再生医療コンソーシアム、難治性循環器疾患の分子医学療法開発連合)。有望な若手を「研究主体教員」に認定する制度もあり、全学 37 名のうち医学関係で８名が認定されている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数(採択金額)が平成 16 年度から平成 19 年度にかけ､133 件(２億 9,000 万円)､132 件(２億 5,000 万円)､133 件(３億円)、134 件(３億円)の合計 532 件(年平均 133 件、年平均２億 8,000 万円)で、採択率は 23.0%(新規分、資料 A1-2007 データ分析集:No.24 科研費申請・内定の状況)となっている。その他の受入れ状況は､平成 16 年度から平成 19 年度全体で､厚生労働省科学研究費補助金 108 件(３億 2,000 万円)、共同研究 76 件(16 億７,000 万円)、受託研究 118 件(８億 9,000 万円)、寄附(寄附講座分を含む)1,809 件(19 億 2,000 万円)、その他の外部資金７件(１億 6,000 万円)があり、厚生労働省科学研究費補助金が減少傾向にあるものの活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、医学領域において先端的な研究成果が多く生まれている。卓越した及び優れた研究成果として、例えば、熱ショック転写因子 HSF 1 による細胞死促進因子 TDAG51 の誘導、細胞内治療標的因子 JNK の発見とその阻害薬による大動脈瘤治療の試み、自己骨髄細胞を用いたマウス肝硬変治療法の開発において国際的に評価の高い成果を上げている。社会、経済、文化面では、医学領域において卓越した研究業績が生まれており、特に、エイコサペンタンの冠疾患発症ランダム化大規模臨床試験解析、IGF- 1 由来 tetrapepride(SSSR)による角膜損傷治療点眼薬の開発が社会的に有用性の高い成果を上げている。さらに、早期肝がんのミニカスタム遺伝子チップによる確定診断法の確立に関する研究は、企業との共同研究による実用化が進んでおり、優れた成果を上げている。また、過去 4 年間の研究成果によって、主な受賞実績として平成 16 年度 19 件、平成 17 年度 34 件、平成 18 年度 27 件、平成 19 年度 31 件があり、特許申請 67 件、特許取得３件があることは、優れた成果である。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

医学系研究科

Ⅰ　研究水準　..... 研究 6-2

Ⅱ　質の向上度　..... 研究 6-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 18 年度に機構改革し、医学博士課程(システム統御医学系専攻と情報解析医学系専攻)に医工連携の「応用医工学系専攻」と医理工農連携の「応用分子生命科学系専攻」とを加え、平成 17 年度設置の「保健学専攻」とともに５専攻として研究推進を図り、医、理、工、農、保健からの専任教員が 227 名所属している。平成 16 年以降の年度別論文･著書実績数は、高い水準を維持しており、平成 19 年度論文･著書総数 1,050 件、教員一名当たり 4.63 件である。内訳は原著論文 587 件(１名当たり 2.58 件)、単著書６件、共著書 133 件、総説･解説･論評等 277 件である。知的財産権の出願状況は、平成 16 年度から増加傾向にあり、平成 19 年度に国内特許 15 件、国外特許４件が出願され、国内特許１件が取得された。研究促進のため研究施設総合科学実験センター(４施設)と図書館を 24 時間利用可能にし、分子生物学と医工学研究リソースとの異分野融合連携施設「修復医学教育研究センター」を立ち上げ、基礎･臨床研究とトランスレーショナルリサーチの推進、難治性疾患の病態修復治療の開発を立ち上げた。全学の取組として「研究推進体」の認定制度があり、全学 57 件のうち医学関係で 15 件が認定され、研究拠点「スーパー研究推進体」として４件中２件が選ばれている(国際肝再生医療コンソーシアム、難治性循環器疾患の分子医学療法開発連合)。また、有望な研究主体教員は、全学 40 名中 12 名が選出された。優秀な若手研究者のため学内ニューフロンテイアプロジェクト選考制度があり平成 19 年度８件が選考され、山口大学医学会賞制度もある。平成 16 年度から山口県や企業との連携で「知的クラスター創成事業」を始め、LED 搭載電子内視鏡を開発している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数(採択金額)が平成 16 年度から平成 19 年度にかけ、133 件(2 億 9,000 万円)、132 件(２億 5,000 万円)、158 件(３億 6,000 万円)、154 件(３億 4,000 万円)の合計 577 件(年平均 144 件、年平均３億１,000 万円)となっている。その他の受入れ状況は、平成 16 年度から平成 19 年度全体で、厚生労働省科学研究費補助金 108 件(３億 2,000 万円)、共同研究 76 件(16 億 7,000 万円)、受託研究 118 件(８億 9,000 万円)、寄附(寄附講座分を含む)1,809 件(19 億 2,000 万円)、その他７件(１億 6,000 万円)があり、厚生労働省科学研究費補助金が減少傾向にあるものの活発な研究活動が展開されていることから、優れた成果である。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、医歯薬領域及び異分野融合領域において先端的な研究成果が数多く生まれている。卓越した研究成果及び優れた研究成果として、例えば、みどりの香り(GLV)の生理的役割、熱ショック転写因子 HSF 1 による細胞死促進因子 TDAG51 の誘導、熱ショック転写因子 HSF 1 と HSF 4 の協調的ないし拮抗的サイトカイン遺伝子発現調節、細胞内治療標的因子 JNK の発見とその阻害薬による大動脈瘤治療の試み、心不全の心筋内 Ca イオン循環異常の解明と抗酸化物質による新規治療薬の開発等において国際的に高い評価を受けている。社会、経済、文化面では、医学領域において卓越した研究業績が生まれており、特に、自己骨髄細胞による肝硬変治療法の試み、エイコサペンタエン酸の冠動脈疾患発症ランダム化大規模臨床試験、IGF- 1 由来の tetrapeptide(SSSR)による角膜損傷治療薬の開発において有用性の高い成果を上げている。さらに、ミニカスタム遺伝子チップの開発を企業との連携で開発し早期肝がんの確定診断法の開発が行われており、優れた成果を収めている。また、過去 4 年間の研究成果によって、受賞実績として平成 16 年度 29 件、17 年度 39 件、18 年度 34 件、19 年度 42 件があり、特許申請は平成 16 年以降増加し、平成 19 年度国内 15 件、国際 4 件で、国内特許 1 件が取得されていることは、優れた成果である。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 7 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

工学部

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 7-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 7-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、教員一名当たり年間の原著論文数は、2.5 件と期待される水準を維持している。研究推進体・研究主体教員の認定による研究推進体制も構築している。研究資金の獲得状況について、平成 19 年度の科学研究費補助金採択率は 40%を超えて、平成 19 年度の教員数に対して 69 件となっており期待される水準を示している。また、共同研究と受託研究に関して、その件数は教員一名当たり 1 件以上となっているなどの相応な成果がある。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、工学基礎から応用にいたる幅広い優れた研究成果を生み出している。例えば、ナノ分離膜、メタマテリアル、白色発光ダイオード、ブリッジマネジメントシステム構築等に関する研究等である。社会、経済、文化面では、優れた研究成果が生まれているが、その中でも卓越した成果として、非破壊検査法開発、GPS を用いたリアルタイム地盤変位観測が上げられる。また、成果の地域還元として、防災に関する研究成果と知識還元が卓越した業績として上げられる。その他、政府関連の複数の受賞も達成していることは、優れた成果である。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

Ⅱ　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理工学研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 8-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 8-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、戦略的な研究推進のための「研究推進体」制度を導入し、研究支援をするほか、優れた実績を持つ教員を研究特任教員あるいは研究主体教員と位置付け、世界水準を目指した研究を支援している。また、人材育成を含めた環境に関する研究拠点としての安全環境研究センターの設置や独創的で地域貢献に該当する「理学部ハイライト研究」への支援、萌芽的研究の支援や若手研究者の海外派遣や研究支援等、学内独自の取組による研究の活性化に取り組んでいる。教員一名当たりの原著論文数が常に２件以上となっていることからも、これらの取組の成果が出ている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の獲得額及び共同研究と受託研究を合わせた金額は、教員一名当たりでそれぞれ約 100 万円と 300 万円弱であり、活発な研究活動が行われていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した及び優れた業績が少ないが、特色ある分野で優れた研究成果もみられる。例えば、燃料電池用高分子電解質膜の製造やメタマテリアル、ブリッジ・マネジメント・システム構築等の分野では卓越した業績に近いものがあり、その他、全般的に優れた論文と評価されたものも少なくない。社会、経済、文化面では、例えば、高速・高信頼度・高精度なトンネル壁のクラック空洞の非破壊センサシステムの開発や GPS を用いたリアルタイム地盤変位観測法において卓越した研究成果を上げ、学会、自治体、財団及び新聞社より合わせて７件の学会賞等を受賞しているなどの相応な成果である。

以上の点について、理工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研

究成果の状況は、理工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

改善、向上しているとはいえない

当該組織から示された事例は３件であり、その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。
該当する事例の判断理由は以下のとおりである。

○「研究力ランキング」については、上海交通大学による大学評価のランキングであり、それ自体は一つの評価として意味のあるものではある。しかし、他機関の評価結果を事例として示すのは適当ではなく、このデータのみで改善あるいは向上が図られたことは読み取れない。以上のことから、改善、向上しているとはいえないと判断される。

農学部

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 9-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 9-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度における教員一名当たりの平均発表数は、各学科で 1.7～2.9 件であり、国内外学会発表件数は高いレベルである。特許申請については４件である。学内関連では、５件の研究推進体及びスーパー研究推進体に認定され、当該大学を代表する研究活動として認められている。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数（採択金額）は 33 件（8,492 万円）、採択件数は所属教員の約半数にのぼり、大型プロジェクトも採択され、研究活動が盛んなことを示している。日本学術振興会（JSPS）－タイ学術研究会議（NRCT）拠点大学交流事業の中核組織として寄与し、国際的にも高い評価を受けている。これらの研究は、地方産業の活性化にも繋がっており、高く評価できることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生命科学・環境科学に関する基盤研究での研究業績において優れた研究成果を収めた研究があり、その中にはインパクトファクター 3.3 の専門誌に掲載され、被引用回数も比較的多い。卓越した研究成果として、例えば、「みどりの香り－植物のケミカルセンシングに関する研究」があり、GLV 生成能力の作物の抵抗性強化に有用であることを示した研究は、インパクトファクター 9.6 の専門誌に掲載されている。また、優れた研究成果として、例えば、「ネギ類，特にタマネギゲノム情報解析のための染色体マッピング」があり、国際的に高い評価の成果を上げている。社会、経済、文化面では、「酢酸菌からのシキミ酸の高度産生に関する研究」は社会的に有用性の高い研究であり、成果が上がっている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

農学研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 10-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均原著論文数が 1.8 件である。国内での発表は 148 件、国外での発表は 22 件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年 16 件（約１億 7,583 万円）である。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成 16 年度以降で、科学技術振興機構（JST）、農業・食品産業技術総合研究機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）等大型の競争的資金を多く獲得しており、活発な研究活動が展開されていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生命科学・環境科学に関する基盤研究での研究業績において優れた研究成果を収めた研究があり、インパクトファクター3.3 の専門誌に掲載され、被引用回数も比較的多い。優れた研究成果として、例えば、「ネギ類，特にタマネギゲノム情報解析のための染色体マッピング」、「みどりの香り―植物のケミカルセンシングに関する研究」などがあり、国際的に高い評価の成果を上げている。社会、経済、文化面では、優れた研究成果として、例えば、「酢酸菌からのシキミ酸の高度産生に関する研究」があり、社会的に有用性の高い研究である。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

東アジア研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 11-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 11-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 16 年度から３年間の状況であるが、教員一名当たり、年間論文を１～２件、著書を 1 件以上執筆している。研究実施に向けた組織として戦略的に取り組み、研究科でテーマを設定して行う「東アジアプロジェクト研究」、外部研究機関等と協力して行う「東アジアコラボ研究」、学内研究推進体によって認定された「21 世紀東アジア型社会・環境・人間」等を遂行している。東アジアプロジェクト研究では国際的シンポジウムを継続的に開催している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択件数）は 13 件（1,780 万円）であり、平成 16 年度以降、受託事業、奨学寄附金など外部研究資金を継続的に獲得しているなど、相応の成果がある。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、共同研究「中国内陸部の地域開発戦略」や、人間関係から考説した先秦史研究は優れた成果を上げている。哲学、国語学、韓国労働経済論、社会学、経済史・経営史などの分野でも相応の成果が見られる。社会、経済、文化面では、当該大学から研究業績説明書の提出はなかったが、研究成果を社会に還元するために、東アジア国際シンポジウムの開催、学外研究機関との共同研究、学術雑誌『東アジア研究』の刊行を行っている。平成 19 年度の東アジア国際シンポジウムのテーマが、上述の共同研究「中国内陸部の地域開発戦略」である。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、東アジア研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、東アジア研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と

判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

技術経営研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 12-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 12-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度において教員一名当たりのプロシーディングスを含めた研究成果公表が 2.3 件で、また教員当たり約 1 件の招待講演を行っており、相応の期待に応えている。研究資金の獲得状況については、西日本における技術経営（MOT）教育・研究の拠点となること及び西日本に所在する企業等が抱えるMOTに関連する課題に対する実践的ソリューションを提供することが期待されている点について、企業や関係外部機関からの受託研究の持つ意味合いが大きいことから判断すると、本務教員当たりの受託研究件数、受入れ金額ともに高い水準にあることなどは、相応な成果である。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を下回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、当該研究科は、社会人教育に特化した専門職大学院として、「実践的 MOT の知の拠点」としての先導的役割、特に、産業界におけるイノベーションを持続的に実現することを研究目的としている。この中で、中期的な重点課題としては、エネルギー問題に組織として取り組んでいる。CO2 排出削減の視点から、家庭におけるエネルギー利用削減は重要な課題であり、家庭向けエネルギー管理サービス普及のための事業戦略創出に関する研究が相応の成果を上げている。さらに、地域エネルギー融通に基づく省エネルギー実現に向けた研究に取り組んでいる。

当該研究科は、設置（平成 17 年度）されて日が浅いために、卓越した研究業績を生む段階には達していないが、目的とする「実践的 MOT の知の拠点」として、卓越した研究業績が今後に求められる。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、

研究成果の状況は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と現段階では、判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は１件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

連合獣医学研究科

Ⅰ　研究水準　.....　研究 13-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 13-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均原著論文数が２件以上であり、知的財産権の出願・取得状況は 13 件の特許出願がなされている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が 32 件（約 1 億 600 万円）となっている。その他の外部資金の受入れ状況は、共同研究が 21 件、(約 1,600 万円)、受託研究が 22 件（約 2 億 3,000 万円)、奨学寄附金が 33 件（約 2,000 万円）となっているなど、活発な研究活動が展開されていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、海外との共同研究により得られた成果が提出業績として 14 件提出されており、中期目標に沿った成果が得られている。また、優れた研究成果として、例えば、生活習慣病と摂食に関する新規ペプチドの研究、体細胞クローン技術の開発に関する研究があり、国際的に高い評価の研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、優れた研究成果として、例えば、鳥インフルエンザ、BSE に関する研究があり、地域を越えて社会的に有用性が高い。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

Ⅱ　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。